

あおぞら

発行：愛知県被災者支援センター

住所：名古屋市中区三の丸 3-2-1

愛知県東大手庁舎 1 階

TEL：052-954-6722

FAX：052-954-6993

開館：月～金 10～17 時



タイトル 「家族旅行」

ぼくは電車とバスの旅番組が大好きです。家族で電車とバスの旅ができて、とってもうれしかったです。



(小学校 2 年生 たくと さん)

◇表紙に掲載する子どもの描いた絵を募集しています◇

絵を送る際に、①絵のタイトル ②絵の説明 (30 字程度) ③掲載するお名前 ④学年 (年齢) ⑤保護者の方の連絡先 (氏名・メールアドレスまたは電話番号) を明記のうえメールまたは FAX にて送ってください。

インタビュー⑤

小林友子さん、岳紀さんご夫妻は、福島県南相馬市から愛知県豊田市に避難し、約1年間の愛知県での避難生活の後、地元に戻られましたが、自宅が避難指示解除準備区域で宿泊ができないため、区域外の仮設住宅で生活されています。

昨年度の飛島村での交流会では、愛知県に駆けつけて、ホッキゴはんなどふるさと料理を作ってください、また地元情報を伝えるなど、地元と広域避難者の方たちとをつなぐ役割として活躍してくださいました。

福島県南相馬市に戻られた 小林友子さん・岳紀さん

◆息子が住んでいる愛知県へ

—どのような経緯で愛知県へ避難することになりましたか？

愛知県に居た息子が「迎えに来る」と言ってきたが、放射能リスクが判らなかったときに頼むとは言えない状況下で、自力で愛知県に向かうことにしました。親戚の車に同乗させてもらい、那須塩原まで再開した新幹線の駅まで辿り着き、さらにそこから新幹線で名古屋駅に着いたときは「別世界」に感じました。当初は息子のマンションに同居しましたが、息子の会社が社宅を避難者に提供して頂けるとのことで、お世話になる事にしました。

◆「帰還」ではなく「帰還に向けた準備段階」

—どうして帰還することを決めましたか？

避難中に部屋に閉じこもっていても気が滅入

ると考えて、ハローワークで働き先を探しましたが、期間などが想定し難く採用には至りませんでした。

避難中にも一時帰宅や行政への手続き、親戚・知人の葬儀などで愛知と福島の往復を繰り返しました。当初は高速道路料金の負担も大きく、休日毎に行き来するパターンで、月に1~2回の往復はハードでした。

地元に戻ると、新聞などでは知り得ない情報があり、その都度対処する必要性を痛感させられました。その中で南相馬市原町区の避難準備地域の解除時期、同地域での仮設住宅の増設の情報が得られ、急遽、仮設住宅の入居を申し込み、2012年2月に入居できました。従って現状は、「帰還」ではなく、「帰還に向けた準備段階」です。



自宅のある小高の駅前通りに花を植えて明るくする活動をしている



放射能測定センター・南相馬に持ち込まれた食品の測定

◆その時々の良いと思われる事をやってみることが肝要

ー「帰還に向けて」の現在の生活と、今後の目標はありますか？

私どもは「避難継続中」です。南相馬に戻り、何もしないで暮らすことは考え難く、年金で最低限度は生活できると思い、愛知県での縁で知り合った NPO の放射能測定のボランティアに参加しています。

放射能測定センターのボランティアに参加していると、色々な方々との接点ができて、農地再生、花づくり・花植え、帰還者への支援、養蚕復活などのメンバーと関わっています。色々なプロジェクトは、事業性、経済性の面から継続させることには障壁も多いとは思いますが、座して何もしない訳にはいかない現状では、その時々の良いと思われる事をやってみることが肝要だと思います。将来のビジョンを描ける様に「もがく」ことではないでしょうか。

震災前から人口流出していた地方で、帰還促進をベースにした復興施策には違和感がありま

~~~~~

小林さんご夫妻は、南相馬市の仮設住宅で、小高区の自宅へ戻るための「帰還に向けた準備段階」の日々を過ごされています。家業再開へ向けての準備や小高駅前通りをきれいな花々で彩る活動の他、放射能測定センターに持ち込まれた農作物などを測定し、住民の方たちに測定結果の放射能の数値を解説したり、復興について語り合ったりと、忙しい毎日です。時々の国内外のジャーナリストからの取材に、心に深い思いを秘めつつも、理性的に現実を見つめたお二人の生き方で、被災者の気持ちを語っていらっしゃいます。

(あおぞら編集委員 戸村京子)



放射線量マップづくりのため放射能測定をしている

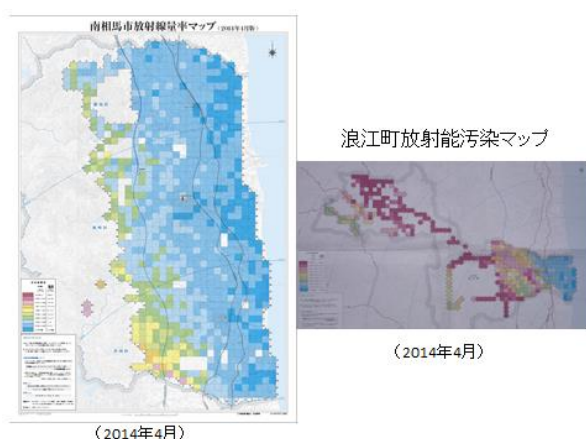
す。人口増に寄らない復興への仕掛けを探さなければならぬと考えます。

## ◆次世代の方々が戻りたいと考えた時に、気兼ねなく帰れるようにしたい

ー広域避難者へのメッセージをお願いします。

私どもは高齢でもあり、健康面で一代限りの心配をすれば足りるので、地元に戻る決断ができてだけです。幼児の居る家族に敢えて「帰ってこい」とは言い難い面もあります。若い世代に必要なのは、生活できるスペースばかりでは無く、働ける環境や日常生活を支える社会環境ですが、当地では警戒区域に指定され立入禁止区域になったため、それらが壊滅的に消滅しているのが現状です。

被災、避難開始から4年近くが経過して、避難先も含めた生活再建を考える時期になっていると思います。私どもの高齢世代が地元に戻り、環境の整備に取り組み、次世代の方々が戻りたいと考えた時に、気兼ねなく帰れるようにしたいと思います。



小林さんらが作成した南相馬市と浪江町の放射線量マップ



## リレートーク



震災から3年が過ぎ、愛知県に避難している方たちは今、どんなことを感じ、何を考え、何をしているのでしょうか。共感や新たな気づき、次につながる何かを見つけるきっかけになって欲しいという思いで、同じ愛知県に避難している方の今をリレー形式で紹介していきます。

### 今の自分と向き合う

#### ●当時お腹の中にいた子どもの成長がたった一つの希望の光だった

震災を経験してから、3年半が過ぎました。福島から避難をして、もうこんなに時が経ったのだと痛感するのは、当時お腹にいた子の成長を見ているときです。子どもが笑ったり、歩いたり、走ったり、しゃべったりと段々と成長していく姿と裏腹に、この子が生まれた時の自分を思い出します。私にとって、3年前にあった苦しみや悲しみばかりだった時間の中で、子どもの成長がたった一つの希望の光でした。

#### ●“知らなかった”“知ることができてよかった”そんな声が私の前に進む力

日常はいつものように過ぎ去っていきますが、未だ震災当時を思い出すと涙が溢れるという生活をしています。何も考えず、流れに任せればきっと思い出すこともないのかもしれませんが、でも、私はこの3年半で伝える大切さを知りました。私の話を聞いて下さった方が、“知ら

なかった”“知ることができてよかった”そんな声が私の前に進む力になっています。

愛知に来て辛いことばかりではなく、出逢った人との繋がりがどんどん増えて、その分喜びも増えました。私たちの置かれている立場を理解してくれて、自分たちに出来ることはないかと言ってくれる方もいます。たくさんの支えの中でこれまで歩いて来られました。

#### ●子どもたちに楽しい未来が描けるように

今自分が何をしたいのか、何が出来るのかを考える時間が増え、弁護団の訴訟原告団にも加わりました。自分の陳述書を読みながら過去の自分を思い出し、涙が止まらなくなったりしましたが、ひとつひとつ乗り越えて行っています。自分たちでどんなことがしたいか仲間と話し合い実現していく、たまにはぶつかりますが、そうやって繋がっていくと繋がりが本物になれる気がします。まだ、遠い未来は見えていませんが、一歩ずつ前に進んで行けたらいいな、と思います。子どもたちに楽しい未来が描けるようにと、今、自分に出来ることを精一杯やっています。

それでも、時々辛くなったり、しんどくなったら仲間やボランティアの方にお話しして、気持ちを落ち着けながら、子どもたちの笑顔を守っていきたいです。

(名古屋市熱田区在住 岡本早苗)



末っ子の誕生日会、3歳になりました

次回のリレートークは押田準子さんです

## 方言講座 ～秋の芋煮会にて～

実りの秋ですねえ～。宮城県では芋煮会が秋のイベントです。毎年、私は故郷の蔵王町にある産直店で開催する芋煮会の調理に応援へ行っていました。その時の生産者同士の会話を紹介します。

- 1: うわあ、このだいごん立派だなやあ。あんだんどごのすか？  
2: んだよ。こどすはてんちいがったがらあんばいぐおがったんだあ。  
3: あんだ、野菜つぐんの上手だねえ。いつ頃種蒔いだったの？

こんな野菜談義をしながら和気あいあいで芋煮汁を調理して、やがてお客様に新米で炊いたおにぎりと芋煮汁を味わっていただくのです。澄みきった秋晴れの下、蔵王連峰を望みながら食べるおにぎりと芋煮汁は格別の美味で至福の時です。夕方になり、後片付けの雑談は、

- 4: 今日の芋煮はんまがったなやあ。おじゃくさんで3杯もおかわりしたしといたよ。  
5: んだねえ。つぐったしとの腕いいからだっちゃ。  
6: みんな、ちょうは本当にごごろうさんだったね。  
7: おでんちいぐでいがったなやあ。  
皆で冗談を言い、大笑いしながら、  
8: んでは、みんなおみょうにちね。

とそれぞれ我が家へ帰って行くのです。この“お

<sup>みょうにち</sup>明日”という挨拶には“また明日元気で会いましょう”という祈りがこめられているのでは、と感じています。

和やかな賑わいで幕を閉じた芋煮会。楽しんで過ごせるのもこの地域で生まれ育った“皆仲間”の意識が強いからこそその連帯かな…と幸せな気分になれる一日でもありました。

~~~~~

以下が訳語です。

- 1: うわあ、この大根立派だねえ。あなたが作ったの？
2: そうだよ。今年は天候に恵まれて良い具合に育ったんだよ。
3: あなたは野菜作るの上手だねえ。いつ頃種蒔いたの？
4: 今日の芋煮はおいしかったねえ。お客さんで3杯もおかわりした人がいたよ。
5: だって、作った人の腕がいいから。
6: みんな、今日は本当にご苦労さんでした。
7: お天気が良くてよかったねえ。
8: それではみんな、お明日ね。

(一宮市在住 押田準子)

スタッフ紹介 ～センター長補佐 向井忍～

支援センターのスタッフがどのような経緯や思いでセンターの仕事をするようになったかを紹介していきます。第5回はセンター長補佐、生活協同組合コープあいちの向井忍です。

コープあいちの向井です。3.11 直後、巨大な自然災害への無力さとショックを感じていましたが「災害からの復興は人間社会の課題であり、復興災害は防げるはず」という言葉に出会って励まされ、以降それが日々の指針であり、心の支えです。コープあいちとして愛知・名古屋ボランティア連絡会に参加したきっかけで、愛知県被災者支援センター発足時から協力団体として関わることができました。縁あって愛知に来られた全ての方に一度はお会いしたいと願っています。





新鮮&安心な食材と出会いたい！

あいちの産直施設

お出かけガイド

第5回
豊橋・豊川の巻



編集：あおぞら編集部

秋がだんだん深まり、秋冬野菜がおいしい季節になりました！シリーズ第5弾は、豊橋・豊川の施設をご紹介します。温暖な気候に恵まれた豊橋市は、農業産出額全国6位という農業大国で、次郎柿の生産量日本一です。おなじみの野菜から名産品まで、いろいろな農産物に出会えますよ。



ピックアップ

④JA豊橋 グリーンセンター磯辺

水曜を除く毎日 9:00～18:00 TEL 0532-45-4588

年中出荷されるおおば(青じそ)の他、キャベツの名産地でもある豊橋。煮崩れしにくい冬系のキャベツは、秋冬のお料理に便利です。11月は、ブロッコリーに、きゅうり、トマト、早生みかん等が増えてきます。秋の味覚で有名なのは、四角く平べったい独特な形の次郎柿。甘さとビタミンCやカロチン等がギュッと凝縮されています。飯村(いむれ)地区で獲れるさつまいもも、多様な調理法でおいしくいただけます。

★豊橋駅からは、東口1番乗り場 大崎線・中浜大崎線「ほいっぶ前(保健センター)」下車。



＜耳より情報＞ 豊橋駅前(南口駅前広場)では、月1回、まちなかの賑わいと農産物の地産地消を推進する「まちなかマルシェ」を週末に開催しています。直近は10/26(日)、11/23(日)開催予定。TEL 0532-46-1823

豊橋・豊川の産直施設 ※営業時間は変更になる場合があります。電話確認されると安心です。

No	施設の名称	住所	定休日	営業時間	電話
①	JA豊橋産直プラザ二川	豊橋市雲谷町ハシヅメ3-78	水曜	9:30～19:00	0532-41-2413
②	JA豊橋ジョイフル杉山	豊橋市杉山町谷下145-1	日曜・祝日	9:00～17:30 土曜～17:00	0532-23-1386
③	JA豊橋植田アグリセンター	豊橋市植田町車塚1	日曜	9:00～17:30	0532-25-1721
④	JA豊橋グリーンセンター磯辺	豊橋市中野町野中40	水曜	9:00～18:00	0532-45-4588
⑤	JA豊橋産直プラザ福岡	豊橋市鴨田町44	水曜	9:30～19:00	0532-46-3973
⑥	JA豊橋産直プラザ吉田方	豊橋市菰口町6-30	水曜	9:30～19:00 ※日曜9:00	0532-31-1966
⑦	JA豊橋産直プラザ石巻	豊橋市石巻本町東野14-4	水曜	9:30～19:00	0532-88-0658
⑧	JA豊橋産直プラザ岩田	豊橋市中岩田二丁目7-3	水曜	9:30～18:00	0532-61-8828
⑨	あぐりパーク食彩村	豊橋市東七根町一ノ沢113	水曜	9:30～18:00	0532-21-3901
⑩	有機朝市 いのちつなぐいちば	豊橋市山田町字西山11-1	金曜	8:30～10:30	0536-26-0683
⑪	JAひまわりグリーンセンター豊川	豊川市馬場町上石畑65	第3水曜、盆・正月	9:00～18:00	0533-85-8318
⑫	JAひまわりAコープー宮店「産直ひろば」	豊川市一宮町錦101	第2水曜、正月	9:00～19:00	0533-93-2975
⑬	JAひまわりグリーンセンター一宮	豊川市東上町松本227	第3水曜、盆・正月	9:00～18:00	0533-93-6111
⑭	JAひまわりAコープ中部店「産直ひろば」	豊川市八幡町鐘鋳場276	第3水曜、正月	9:00～20:00	0533-89-1201
⑮	JAひまわりグリーンセンター音羽	豊川市赤坂町大日6	第2水曜、正月	9:00～18:00	0533-88-6600
⑯	JAひまわりAコープ御津店「産直ひろば」	豊川市御津町西方松本67	第2水曜、正月	9:00～19:00	0533-76-2135
⑰	JAひまわりAコープ小坂井店「産直ひろば」	豊川市小坂井町門並18	第2水曜 (正月・8月・12月除く)	9:00～19:00	0533-78-3381

●愛知県で把握しているこの地域の産直施設で営業期間が長いものを上記で紹介しました。県農林政策課(TEL 052-954-6395)が制作したインターネットサイト「あいちの農林水産 産地直売所・ふれあい体験施設」では300もの全施設がご覧になれます。URL <http://www.pref.aichi.jp/0000003150.html>



旬のお出かけ情報

～ 色鮮やかな紅葉 ～



秋の行楽といえば紅葉狩り！11月頃から段々と見頃になっていきます。愛知では豊田市の香嵐渓が有名ですが、他にも紅葉スポットがたくさんあります。色付く時期に合わせて、もみじまつりを開催しているところもあり、紅葉とともに楽しめます。どこもまた違った景色が見られるので、いくつか回ってお気に入りのスポットを見つけてみるのもいいですね。



大井平公園の風のつり橋と紅葉

紅葉スポット	見頃	スポット紹介	お問合せ先
祖父江の イチョウ (稲沢市)	11月上旬 ～12月上旬	ぎんなんの特産地として有名な稲沢市祖父江町。祐専寺のイチョウなど樹齢100年を越える大木が何本も存在し、町を黄金色一色に美しく染めます。	そぶえイチョウ黄葉 まつり実行委員会 (0587) 97-5800
犬山寂光院 (犬山市)	11月中旬 ～12月上旬	約1360年前に建てられた尾張の最古刹で、別名「もみじでら」と呼ばれて親しまれています。	犬山観光案内所 (0568) 61-6000
岩屋堂公園 (瀬戸市)	11月中旬 ～11月下旬	園内の川沿いからは、川面に美しく映える幻想的な紅葉が鑑賞できます。夜のライトアップ[11/14(金)～24(月・祝) 17:30～21:00]も好評。	瀬戸市まるっとミ ュージアム・観光協会 (0561) 85-2730
大井平公園 (豊田市)	11月中旬	稲武地区で約550本紅葉を楽しめるビュースポット。赤と黄の見事なコントラストの紅葉です。	いなぶ観光協会 (0565) 83-3200
小原四季桜 (豊田市)	11月中旬 ～11月下旬	紅葉と約1万本の四季桜が同時に鑑賞できます。小原四季桜まつりでは多彩な催しが行われます。	小原観光協会 (0565) 65-3808
香嵐渓 (豊田市)	11月中旬 ～12月初旬	もみじまつり開催中[11/1(土)～11/30(日)]は様々なイベントで賑わい、幻想的なライトアップ(日没～21:00)も行われます。	足助観光協会 (0565) 62-1272
くらがり溪谷 (岡崎市)	11月中旬 ～12月上旬	渚や滝と紅葉のコントラストが美しい景勝地。カエデやクヌギなどが溪谷を赤や黄色に染めます。	岡崎市観光協会 (0564) 23-6217
宮路山 (豊川市)	11月中旬 ～11月下旬	木造の休憩所のデッキから望む、周辺一帯を赤く染め上げた景色は壮観です。	豊川市観光協会 (0533) 89-2206
鳳来寺山 (新城市)	11月中旬 ～12月上旬	朱や黄色など11種の木々が鮮やかに紅葉し、老杉の間に見え隠れする風情は格別です。	新城市観光協会 (0536) 32-0022
桜淵公園 (新城市)	11月下旬 ～12月上旬	春の桜はもちろん、夏は緑、そして秋は見事な紅葉を溪谷美とともに楽しめる貴重な公園です。	新城市観光協会 (0536) 32-0022

●詳しい情報は愛知県観光協会のホームページ

(<http://www.aichi-kanko.jp/index.asp>) からご確認いただけます。



交流会紹介 ～ふれあいひろば小牧～

9月6日に第5回ふれあいひろば小牧を開催しました。ふれあいひろば小牧は避難の理由に関係なく誰でも参加でき、自由におしゃべりを楽しめる交流会です。今回は参加者の方と、ボランティアさんのお二人の声をお伝えします。

今回はじめて、午後からの始まりとし、18時からの薪能だけの参加者もあり楽しみにしていました。早めに来て小牧山で楽しむ方々もいました。14時からのおしゃべりタイムは、初めて交流会に参加された方も加わり、被災者10名、スタッフ・ボランティア15名が集まりました。喉をうるおし、お菓子をつまみながら自己紹介の後それぞれ話の輪ができ、2時間半はあっという間に過ぎました。

17時には薪能会場へ移動し開演を待ちましたが、ポツポツと雨が降り出し中止になってしまいました。小牧市社協の方が特別観覧席を手配してくださっていたのですが、観られず残念でした。

(小牧市在住 湊房子)

今回は、被災体験だけでなく、これまでのご自分の人生やご家族のことを少しずつ話していただくことができ、交流会の参加を続けてよかったと思いました。話を聴かせていただきながら、同世代の子どもや孫を持つ一人の親として、ご両親の心情にまで思いを馳せてしまい、この先、この若い子育て世代は生きるために戦い続けていかなければならないのだと痛感させられた交流会でした。

(傾聴ボランティア「こまき」)

次回、第6回は12月7日(日)に予定しています。詳細は定期便に同封のチラシでお知らせしますので、お気軽にご参加ください。

支援センターからのお知らせ

<11月の支援センターカレンダー>

11月	交流会 / センターの動き	開催地域
2日	ふるさと祭りいも煮会 子育てつどいの広場	名古屋市 名古屋市
8土	パッチワーククラブ	名古屋市
10月	定期便発送	
15土	今あなたの感じているままの想いを語る場	名古屋市
22土	パッチワーククラブ 囲碁クラブ	名古屋市 名古屋市
23日	いわき市交流会	名古屋市
25火	定期便発送	
28金	あおぞら編集会議(予定)	

あおぞらに関する

<宛先>はこちら

(表紙の絵、ご意見・ご感想など)

〒460-0001

名古屋市中区三の丸3-2-1

愛知県東大手庁舎1階

愛知県被災者支援センター

TEL : 052-954-6722

FAX : 052-954-6993

E-mail : aozora@aichi-shien.net

皆さまのご意見をお待ちしております

